

ESD フードプロジェクト 活動報告

持続可能な食生活とは

北原 彩羽

神戸大学附属中等教育学校

1. 題目

ESD フードプロジェクト活動報告

先生による講義を受けている様子



2. 社会的意義

中高生の時から食の問題や課題意識を身につけることで、持続可能な食生活を作っていくこれからの世界を引張るリーダーとなれる。また、本活動を長期的に続けることで持続可能な食生活への意識が高まった中高生が大人になりその情報を発信していく立場となり持続可能なサイクルができる。

フードドライブをした際、フードバンク関西様に得た食品を渡している様子



3. 目的

食生活を持続可能なものにするために多角的に食をとらえる。

4. 方法

- 様々な科目先生方による講義
ex.ESD、生物、家庭科、体育、歴史、美術
- 特別講義 コープ神戸連携様
- 神戸大学の農園と連携して行う野菜探求活動
- エコクッキング
- 調理実習
- フードドライブ
- 生徒自ら校内や地域の食の課題の調査し、解決案を考える。

野菜探求活動で干し柿を作っている様子



5. 考察

数々の講座や実習により、生態系の維持の大切さ、旬の食材がもたらす利潤、地域の食文化の保護継承受け入れの必要性、生産者側の苦勞、食の問題が抱える複雑性と曖昧性など多くの切り口から食をとらえることができた。持続可能な食生活を創るためにはこのような多くの視点から一つずつ課題を解決していくしかないと感じた。

今までの活動は、活動範囲が校内に縛られているので、他校や地域との活動にも力をいれたい。また、受動的な活動が多いので得た知識や見解をアウトプットさせる場を増やしたい。